

【「立教英国学院校歌」 徹底研究】

(1) 品詞分解

(主格)

名詞 マ下二連体 名詞 格助 名詞 名詞 格助 名詞 格助 タ上二連体 名詞

東雲 さむる 丘 の 上 春 の 光 の みつる と とき

(詠嘆)

(並列)

名詞 タ四連用 接続助 ワ上二連体 名詞 格助 バ四連体 間投助 名詞 格助 名詞 格助 名詞

信 も て 集 う 若人 が 呼 ぶ や 希 望 と 愛 の う た

名詞 名詞 名詞 サ変連用 接続助 名詞 格助 形体言 名詞

マロニエ 並木 落葉 し て 梢 に 高 き 北斗星

(呼びかけ)

(比況)

(強調)

名詞 格助 名詞 格助 カ四命 間投助 格助 カ四連体 助動連用 カ四連用 助動終

真理 の 門 を 叩 け や と さ さ や く 如 く ま た た き ぬ

名詞 名詞 格助 名詞 格助 名詞 格助 名詞 格助 名詞 格助 マ下二連用

こ こ 南英 の 学 び 舎 に 愛 の 訓 え の 帯 を し め

(適當)

(完了) (意志)

名詞 格助 名 格助 サ変連用 接助 カ四連用 助動連体 名 格助 マ下二連用 助動未 助動終

も ろ 国 び と を 友 と し て 行 く べ き 道 を 究 め な む

(仮定)

(強意)

名詞 格助 名詞 ラ四未然 助動連体 名詞 名詞 名詞 格助 ラ四命 終助 格助

世 界 の 平 和 成 ら ん と とき 栄 光 と わ に あ れ か し と

(意志)

副詞 ハ下二未 助動連体 代名 格助 名詞 名詞 格助

と も に た た え ん わ が 母 校 立 教 英 国 学 院 を

一、明け方目覚めると、丘の上に春の光がいつぱいに降り注ぎ、
信仰をもつて集まる若者たちの希望と愛の聖歌を歌う声が響いている。

二、マロニエの並木道で木々が葉を落とす頃、木々の先の高いところに北斗星が、
真理を求めて、学院の門を叩きなさいと そうささやくように瞬いている。

三、ここ南英の学び舎で、すべての徳を締めくくり完成する愛の教えの帯を締め、
世界中の人々と友になり、どこまでも行くべき道を行こう。

四、世界の人々の平和が実現するとき、神の栄光が永遠にありますようにと祈り、
共に称賛しよう、私たちの母校、立教英国学院を。

(2)

英語歌詞 和訳

1. 私たちの Pallinghurst Hill の上で、夜が明け始めました。
今、世界中がさわやかな春の光を浴びているようです。

さあ太陽に挨拶をしましょう。
若い声は心をひとつに聖歌を声高らかに歌います。
どんなときも全てにおいて信仰と希望と愛を求めて。

2. 栗の木の並木道、秋に葉が落ちて、その木々のてっぺんの真上に北斗星が明る

く輝いています。

今、私たちにささやきかけていますか？

ずっときらきら輝いていますか？

真実の門をあなたが叩きなさい。そうすれば開かれるはずです。

3. ここ南英の丘の真ん中にそびえる私たちの学校は、

日々、私たちに愛の戒律を教え、私たちを守っています。

そして、ここに住む全ての人々が友情で固く結ばれています。

私たちが進むべき道を共に探し見つけるために

4. そして、私たちの世界について本当の平和が訪れるとき、

天のいと高きところに神の栄光。

それから、私たちもまた、母校立教英国学院を称賛して歌います。

私たちの心は神様の御心に適うでしょう。

＊日本語の歌詞と英語の歌詞を比較する

まず、校歌の英語の歌詞を和訳してみると、歌詞から学校の風景や日々の生活が目の前に見えるかのようでした。全体的に明るくさわやかで愛にあふれる印象を持ちました。日本語の歌詞にはない表現もあり、説明が加えられているようでした。

そのため、英訳から日本語の歌詞の意味を考えた箇所もあります。

一方、日本語の歌詞は、文語体ということもあり、これまで少し堅い印象を持っていました。歌詞から想像する学校もずいぶん昔のイメージでした。しかし、普段何気なく歌っていた校歌をこうして一語一語ひも解いていくことにより、それぞれの言葉の深さや力強さに気づき、縣校長先生のお教えや生徒への思いを改めて知る

ことになりました。また、縣校長先生が特に大切にされてこられたであろう「みことば」を丁寧に読むことで、より強く、そのメッセージを受け取ることができました。

私たちが立教英国学院の生徒として、神様を信頼し、正しい道を歩むことができるようにここで何を学び、何を身に付けていくべきなのか、この校歌が教えてくれています。最高学年である私たちには、これまで教わってきたことを後輩たちに行動で示していかなくてはなりません。そして、これまでよりもっと心を込めて、聖書の言葉を思い出し、かみしめながら校歌を歌います。

(3) 聖書の中の言葉と歌詞を照らし合わせる

1 「東雲さむる」

★詩篇57編9節・108編3節

「わたしは曙を呼び覚まそう。」

夜明け前に神様に信頼する心を固めて、新しい一日を始める、

私たちの魂を目覚めさせてくださいという祈りを込めているようです。

3 「愛」

★コリントの信徒への手紙 13章13節

「信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

「愛」という言葉に込められた思いがとても大きいことが、この章から分かりました。そして、目に見えないこの三つのものを大切にすることを教えてく

ださっています。お金で買うことはできませんが、誰にでも持つことができます。永遠に滅びずにいつまでも残るものこそ本当の価値があります。愛の性質、絶対性と永遠性をいつも心に留めておきたいと思います。

4 「真理の門を叩けやと」

★マタイによる福音書 第7章7節

「門を叩きなさい。そうすれば、開かれる。」

この箇所には、天の父が、求める者に良いものをくださるにちがいないから人にしてもらいたいと思うことは何でも人にしなさいと書いてあります。誰にでもその門戸が開かれる世界になるために求めるだけでなく、そのためにすべきこと、正しく求めることを教えてくださっています。

6 「帯」

★コロサイの信徒への手紙 第3章14節

「愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。」

愛は全ての徳を結び合わせる帯の役目をするということです。

身に着けるべきものは、「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容」

と、言っています。

7 「世界の平和成らんとし」

★ルカによる福音書 第2章14節

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」

神様の栄光を賛美

神様に喜ばれるようになった人々の間に平和が訪れます。そして、人々にとって最も良い祝福があるようにと神様を賛美しています。

★マタイによる福音書 第5章9節

「平和を実現する人々は、幸いである」

「平和」は戦争がない状態だけではなく、お互いに愛をもって理解し助け合い、より良く生きることです。「神様との平和」をつくり出します。「平和」に貢献できる人は他者を信頼できる人です。皆にそういう人になってほしいという願いが込められているのかもしれませんが。